

授業実践事例

中学校 第2学年 単元名 ホームステイに関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを伝え合う。(全6時間)

単元を通して身に付けさせたい資質・能力 読んだことを基に考えたことや感じたことなどを伝え合う。

単元終末の言語活動 留学生からのメールを読み、習慣やマナーの違いによる悩みに対してアドバイスをするために、英文を引用したり内容に言及したりしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合う。

※本事例は、「読むこと」の指導を行ったあとの「話すこと [やり取り]」の指導に焦点を当てて示しています。

1 単元の目標

習慣や文化の違いによる留学生の悩みに対してアドバイスをするために、ホームステイについて書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことなどを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。

2 単元の評価規準(「話すこと[やり取り]」の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈have to + 動詞の原形〉や助動詞 must、動名詞の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 - ホームステイについて考えたことや感じたことなどを、〈have to + 動詞の原形〉や助動詞 must、動名詞などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	習慣や文化の違いによる留学生の悩みに対してアドバイスをするために、ホームステイに関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合っている。	習慣や文化の違いによる留学生の悩みに対してアドバイスをするために、ホームステイに関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合おうとしている。

※ここでは、「話すこと [やり取り]」についての評価規準を示していますが、実際の指導と評価に当たっては、他の領域(「読むこと」など)の評価規準を設定することも考えられます。

単元の目標や評価規準の設定については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を御参照ください。



3 単元の指導と評価の計画(全6時間)

時	ねらい(■)、主な言語活動等(丸数字)	知	思	態	【評価方法】
1	■単元の目標を理解する。 ①米国でホームステイをしている女の子の映像を見て、日米の生活習慣や文化の違いに触れ、共に暮らすことについて考える。 ②自己目標を設定する。 ■A L Tの家庭でのルールについての文章を読み、英文を引用するなどしながら、考えたことなどを伝え合う。 ③A L Tの家庭でのルールについての文章を読み、おおまかな内容を捉える。 ④A L Tの家庭でのルールについて、メモを取り、考えたことなどをペアで伝え合う。 ⑤教師と生徒がやり取りを行いながら、対話を継続・発展させる方法(ストラテジー)を共有したり、英文を引用するための英語表現を学んだりするとともに、〈have to + 動詞の原形〉の特徴				本時では、【指導に生かす評価】を行います。

1.単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、生徒に単元の見通しをもたせる場面を設定します。

☞「[単元デザイン FIRST STEP](#)」

次ページ参照

次ページ参照

2. 単元を通して、言語活動と指導を繰り返していきます。また、後日のパフォーマンステストに向けて、題材を変えながら、読んだことを基に考えたことや感じたことなどを伝え合う言語活動を繰り返し設定しています。 ☞「単元デザイン FIRST STEP」	やきまりを理解する。 ⑥メモを再構築し、再度、ALTの家庭でのルールについて、英文を引用するなどしながら、考えたことなどを別のペアで伝え合う。 ⑦ペアで話した内容を踏まえ、自分の考えを書く。	「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例) ・再構築したメモを基に発話をするモデルを示し、それを参考にしながら、考えたことなどを伝え合うよう促す(言語活動⑥)。	3. 単元において、適宜生徒の学習状況を把握する場面を設定します。 1～6時間目は、単元や本時の目標に迫るため、生徒の学習状況を適切に見取り、「指導に生かす評価」を行います。 ☞「学習評価 FIRST STEP」
	2 ■教科書本文を読み、アメリカにホームステイをする際のアドバイスについて、英文を引用するなどしながら、考えたことなどを伝え合う。 ①教科書本文を読み、おおまかな内容を捉える。 ②アメリカにホームステイをする際のアドバイスについて、メモを取り、英文を引用するなどしながら、考えたことなどをペアで伝え合う。 ③教師と生徒がやり取りを行いながら、英文を引用するなどの表現を共有する。 ④メモを再構築し、再度、別のペアで伝え合う。 ⑤ペアで話した内容を踏まえ、自分の考えを書く。	本時では、「指導に生かす評価」を行います。	
	3 ■教科書の対話文を読み、ホストファミリーの家庭でのルールに対して英文を引用するなどしながら、考えたことなどを伝え合う。 ①教科書本文を読み、おおまかな内容を捉える。 ②ホストファミリーの家庭でのルールに対して、メモを取り、英文を引用するなどしながら、考えたことなどをペアで伝え合う。 ③教科書本文に用いられている対話を継続・発展させる方法(ストラテジー)を確認するとともに、助動詞 must の特徴やきまりを理解する。 ④メモを再構築し、再度、別のペアで伝え合う。 ⑤ペアで話した内容を踏まえ、自分の考えを書く。	本時では、「指導に生かす評価」を行います。	
	4 ■教科書本文を読み、留学生の食生活の違いによる悩みに対して、英文を引用するなどしながら、アドバイスを伝え合う。 ①教科書本文を読み、おおまかな内容を捉える。 ②留学生の悩みに対するアドバイスについて、メモを取り、考えを整理する。 ③メモを基に、英文を引用するなどしながら、留学生の悩みに対するアドバイスをペアで伝え合う。 ④教師と生徒がやり取りを行いながら、動名詞の特徴やきまりを理解する。 ⑤前時までに学んだ引用方法を確認し、再構築したメモを基に、再度、別のペアで伝え合う。 ⑥ペアで話した内容を踏まえ、アドバイスを書く。	本時では、「指導に生かす評価」を行います。	

5	■教科書本文を読み、留学生の生活様式の違いによる悩みに対して、英文を引用するなどしながら、アドバイスやその理由などを伝え合う。 ①教科書本文を読み、おおまかな内容を捉える。 ②留学生の悩みに対してのアドバイスやその理由などについて、メモを取り、考えを整理する。 ③メモを基に、英文を引用するなどしながら、アドバイスやその理由などをペアで伝え合う。 ④教師と生徒がやり取りを行いながら、動名詞の特徴やきまりを理解する。 ⑤前時までに学んだ引用方法を確認し、再構築したメモを基に、再度、別のペアで伝え合う。 ⑥ペアで話した内容を踏まえ、アドバイスを書く。	本時では、〔指導に生かす評価〕を行います。
	「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例) ・再構築したメモを基に発話をするモデルを示し、それを参考にしながら、考えたことなどを伝え合うよう促す(言語活動⑤)。	
6	■日本でホームステイをしている留学生からのメールを読み、習慣やマナーの違いによる悩みに対してアドバイスをするために、英文を引用するなどしながら、考えたことなどを伝え合う。 ①メールを読み、おおまかな内容を捉える。 ②留学生の悩みに対してのアドバイスやその理由などについて、Interactive Teacher Talk を聞く。 ③アドバイスやその理由などについて、メモを取り、考えを整理する。 ④メモを基に、英文を引用するなどしながら、アドバイスやその理由などをペアで伝え合う。 ⑤教師と生徒がやり取りを行いながら、アドバイスやその理由などを全体で共有する。 ⑥アドバイスやその理由などについて、メモを再構築し、再度、別のペアで伝え合う。 ⑦ペアで伝え合ったことを全体で共有する。 ⑧共有した内容を踏まえ、アドバイスを書く。 ⑨自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。	本時では、〔指導に生かす評価〕を行います。
	「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例) ・再構築したメモを基に発話をするモデルを示し、それを参考にしながら、考えたことなどを伝え合うよう促す(言語活動⑥)。	
後日	パフォーマンステスト「話すこと [やり取り]」	本時では、〔記録に生かす評価〕を行います。 ○ ○ ○ [インタビュー]

4. 単元終末に単元の学習を振り返る場面を設定します。
 ♪「授業デザイン FIRST STEP Vol.4—『振り返り編』」

5. この単元において**〔記録に残す評価〕**は、「後日」のパフォーマンステストにおいて行います。**〔記録に残す評価〕**は、基本的に「単元終末」や「後日」に行います。
 ♪「学習評価 FIRST STEP」

単元の指導と評価の計画の立て方については、国立教育政策研究所「**『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料**」や佐賀県教育センターHP「**単元デザイン FIRST STEP**」、「**学習評価 FIRST STEP**」を御参照ください。



4 本時の目標 「授業デザイン FIRST STEP Vol.2」『目標』編一

日本でホームステイをしている留学生からのメールを読み、習慣やマナーの違いによる悩みに対してアドバイスをするために、英文を引用したり内容に言及したりしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合うことができる。

5 本時の展開(6/6) 「授業づくりのポイントチェックシート」

	主な言語活動等	指導上の留意点(口評価)																
導入	1 帯活動をする。	・対話を継続・発展させるために必要な表現集を活用しながら、small talk をする。																
	2 本時の目標、採点基準（ルーブリック）及び活動の流れを確認し、本時の見通しをもつ。	・生徒が本時の見通しをもつことができるよう本時の目標、採点基準（ルーブリック）及び活動の流れの確認をする。																
	Today's Goal：日本でホームステイをしている留学生からのメールを読み、習慣やマナーの違いによる悩みに対してアドバイスを考え、ペアで伝え合おう。																	
	【「思考・判断・表現」（表現内容の適切さ）を評価するための3つの条件】																	
	条件１：留学生の悩み（日本のテーブルマナーが分からない）について関連した英文を引用したり、その内容に言及したりしている。 条件２：留学生の悩み（日本のテーブルマナーが分からない）に対応したアドバイスやその理由などを述べている。 条件３：対話を継続・発展させる方法（ストラテジー）を用いてやり取りしている。																	
	【採点基準（ルーブリック）】																	
	<table><tr><th></th><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr><tr><td>a</td><td>誤りのない正しい英文で話すことができる。</td><td>3つの条件を満たしてやり取りしている。</td><td>3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。</td></tr><tr><td>b</td><td>誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。</td><td>1つの条件を満たしていないが、それ以外の2つの条件を満たしてやり取りしている。</td><td>1つの条件を満たしていないが、それ以外の2つの条件を満たしてやり取りしようとしている。</td></tr><tr><td>c</td><td>「b」を満たしていない。</td><td>「b」を満たしていない。</td><td>「b」を満たしていない。</td></tr></table>		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	3つの条件を満たしてやり取りしている。	3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。	b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	1つの条件を満たしていないが、それ以外の2つの条件を満たしてやり取りしている。	1つの条件を満たしていないが、それ以外の2つの条件を満たしてやり取りしようとしている。	c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度															
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	3つの条件を満たしてやり取りしている。	3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。															
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	1つの条件を満たしていないが、それ以外の2つの条件を満たしてやり取りしている。	1つの条件を満たしていないが、それ以外の2つの条件を満たしてやり取りしようとしている。															
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。															
展開	3 日本でホームステイをしている留学生のメールを読み、おおまかな内容を捉える。	・キーワードなどを使って、概要の確認を行う。																
	4 留学生の悩みに対してのアドバイスやその理由などについて、Interactive Teacher Talk を聞く。	・対話を継続・発展させる方法（ストラテジー）や英文を引用したり内容に言及したりするための英語表現を用いながら生徒とやり取りを行い、メモに基づいて発話をするモデルを示す。 ⇒ 工夫1：メモの活用(p.6)																
	5 アドバイスやその理由などについてメモを取り、考えを整理する。	・自分が伝えたい内容を整理するために、マッピングを使って、メモを取るよう促す。																

ポイント

【主な言語活動等1】
単元を通して、対話を継続・発展させるための表現集を用いた帯活動を繰り返し設定し、継続的に指導を行います。

【主な言語活動等2】
生徒と「目標」や「採点基準」(ルーブリック)などを共有し、見通しをもたせることで、生徒が主体的に学ぶことにつなげます。

【主な言語活動等3、4】
本時の目標に迫るために、文章全体の概要を押さえたり、対話を継続・発展させる方法（ストラテジー）や英文を引用したり内容に言及したりする英語表現を確認したりする。

【主な言語活動等4、5、6、7】
個々の生徒が本時の目標に迫ることができるよう、「指導に生かす評価」を行います。特に、「努力を要する」状況(c)と判断される生徒に対しては、適切なフィードバックを行います。

	6 メモを基に、英文を引用したり内容に言及したりしながら、アドバイスやその理由などをペアで伝え合う。 7 教師とやり取りを行いながら、アドバイスやその理由などを全体で共有する。 8 アドバイスやその理由などについて、メモを再構築し、再度、別のペアで伝え合う。  9 ペアで伝え合ったことを全体で共有する。 10 全体で共有した内容を踏まえ、アドバイスを書く。 	・メモを基に、自分の考えなどを伝えるよう促す。 ・帯活動で使用している表現集を参考に、対話を継続するよう促す。 □机間指導を行い、生徒の発話内容や使用している表現を把握する。 ・対話を継続・発展させる方法（ストラテジー）を用いながら、全体共有を行う。 ・生徒とやり取りした英文を板書し、視覚化する。 ・【「思考・判断・表現」（表現内容の適切さ）を評価するための3つの条件】を基に指導を行う。 ⇒ 工夫2:言語活動の繰り返しと中間指導(p.7) □机間指導を行い、【採点基準（ルーブリック）】を基に生徒の発話を確認する。 ※ここでは、本時の目標を踏まえ、生徒の発話内容に重きを置いて指導を行う。 ・考えを広げたり深めたりすることができるよう、様々な視点からの考えを共有する。 ・机間指導を行い、【採点基準（ルーブリック）】を基に生徒の発話を確認する。	【主な言語活動等 6、7、8】 1単位時間においても、言語活動と指導を繰り返し、読んだことを基に考えたことや感じたことなどを伝え合う力を高めていきます。
まとめ	11 本時のまとめを行う。 ☞「授業デザイン FIRST STEP Vol.3『まとめ』編」 12 本時や単元の振り返りを行う。 ☞「授業デザイン FIRST STEP Vol.4『振り返り』編」	・生徒の発言を取り上げながら、本時の目標に対応したまとめを行い、板書をする。 ・本時や単元の目標に沿った振り返りの視点を示し、生徒自身が自己評価できるようにする。 ・今後の見通しをもつことができるようにする。	【主な言語活動等 12】 学習したことを振り返ったり、次の学習の見通しを立てたりすることで、自らの学習を調整しながら主体的に学ぶことにつながっていきます。 はじめは、「①できるようになったこと」「②できるようになりたいこと」「③できるようになるための方策」など、幾つか視点を示し、振り返りを書くように促します。

6 本時における指導と評価の工夫

工夫1:メモの活用

本時では、読んだことを基に考えたことや感じたことなどを伝え合う力を育成するために、即興性を重視し、キーワードを書いたメモを基に伝え合う言語活動を取り入れています。

言語活動等4「留学生の悩みに対してのアドバイスやその理由などについて、Interactive Teacher Talk を聞く」では、言語活動前の指導として、教師と生徒でやり取りを行いながら、教師がメモを基に発話をするモデルを示します。言語活動等4の具体を以下に示します。

【指導の流れ】

STEP 1 Interactive Teacher Talk を行い、留学生の悩みに対してのアドバイスやその理由などの例を口頭で示す。

[教師と生徒 A とのやり取り] ※メールのおおまかな内容を確認したあと

教師: Patrick says, "I don't know Japanese table manners," in his e-mail. What advice should we give?

生徒 A: Japanese table manners ...?

教師: Yes. He is doing a homestay in Japan now. What Japanese table manners should he know about?

生徒 A: どんなテーブルマナーを伝えたらいいかな。

教師: Well, I'll say to him, "You don't have to use chopsticks. You can use a knife and fork in Japan too."

生徒 A: That's a good idea.

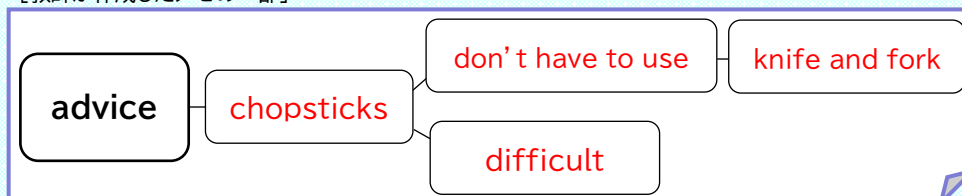
教師: Thank you. Using chopsticks may be difficult for people in America.

生徒 A: I see.

- ・メールのおおまかな内容を生徒と確認したあと、やり取りを行いながら、アドバイスやその理由などの例を教師が口頭で示します。
- ・対話を継続・発展させる方法(ストラテジー)や英文を引用したり内容に言及したりするための英語表現を用いながら、生徒とやり取りを行います。

STEP 2 教師が事前に作成したメモを、電子黒板で生徒に示す。

[教師が作成したメモの一部]



- ・メモは、キーワードのみなど、できる限り短い表現にとどめます。

STEP 3 メモにあるキーワードに注目させながら、もう一度、Interactive Teacher Talk を行い、アドバイスなどを伝える。

[メモを基に発話した英文例]

メモ: chopsticks don't have to use → 発話: You don't have to use chopsticks.

メモ: knife and fork → 発話: You can use a knife and fork in Japan too.

メモ: chopsticks difficult → 発話: Using chopsticks may be difficult.

- ・メモを基に、どのような英文を生成して発話につなげているのかに焦点を当てます。
- ・必要に応じて発話した英文の語順を確認します。

STEP 4 Interactive Teacher Talk や教師が示したメモを参考にしながら、自分の考えのメモを取るよう促す。

※このあと、言語活動等5を行います。

メモは自分の考えなどを伝えるための補助的な手段なので、メモを書く際は、正確な英語使用を求め過ぎないようにしましょう。



工夫 2: 言語活動の繰り返しと中間指導

本時では、言語活動を複数回繰り返し、言語活動間に中間指導を入れる学習過程を取り入れることで、読んだことを基に考えたことや感じたことなどを伝え合う資質・能力を育成していきます。

本時の言語活動等4～8における指導の流れを以下に示します。

【生徒のやり取りの変容】

言語活動前

【言語活動①】※生徒 B と生徒 C との対話

B: What advice do you give?
 C: Well, "Say... your host mother... I want to eat more."
 B: "I want to eat more" ... Why?
 C: Because... えっと host mother... good cooking.
Patrick wants to enjoy host mother dinner.
 B: Hmm... Is it an advice for Japanese table manners?
 C: Well, how about you? What advice do you give?
 B: Well, I'll say, "You can practice using chopsticks with your host family."
 C: Oh, I see.

中間指導

【言語活動②】※ペアを変え、生徒 C と生徒 D との対話

D: What advice do you give?
 C: Well, he says, "I don't know Japanese table manners."
 So, I'll say to him, "Say itadakimasu before you eat."
 D: That's good.
 C: We show the feeling of "thank you" before we eat in Japan. It's important.
 How about you? What advice do you give?
 D: Well, I'll say to him, "Eat up all the food."
 C: Eat up? Why?
 D: Because eating up is an important manner in Japan.
 But it is different in America.
 C: Really? It's interesting.

【言語活動前の教師の働き掛け】

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを確認します。
- ・使用する言語材料は明示しません。
- ・文章全体の概要や要点を確認します。
- ・対話を継続・発展させる方法(ストラテジー)や英文を引用するための表現を用いながら、教師同士で言語活動のモデル対話を行ったり、生徒とやり取りを行ったりします。

【教師と生徒 B との対話】※生徒が自分の考えのメモを取ったあと

教師: Patrick says, "I don't know Japanese table manners," in his e-mail. What advice can we give?
 生徒 B: Japanese table manners... My advice... "You, your host family, can practice ... chopsticks."
 教師: Practice using chopsticks? That's good. Why do you think so?
 生徒 B: Because... Patrick says... "I'm not good at using chopsticks."
 教師: I see. So, you'll say to him, "You can practice using chopsticks with your host family."
 生徒 B: Yes. How about you? What advice do you give?
 教師: Me? I'll say to him, "You don't have to use chopsticks. Using chopsticks may be difficult for people in America."
 生徒 B: I see.

【中間指導での教師の働き掛け】

内容面: 【「思考・判断・表現」(表現内容の適切さ)を評価するための3つの条件】を基に、留学生の悩みに対するアドバイスとなるよう、生徒の発話を例として取り上げ、何を伝えたとよりよくなるのかを全員で考えます。
 言語面: 単語だけによる発話を文にしたり、語順の誤りを修正したり、日本語での発話を英語にしたりすることなどを行います。また、対話を継続・発展させる方法(ストラテジー)や英文を引用するための表現などを使いながら、生徒とやり取りを行います。

【教師と生徒 C とのやり取り】

教師: What advice do you give to Patrick?
 生徒 C: I'll say... "Say...your host mother... I want to eat more."
 教師: Hmm... Does Patrick want to eat more...? In his e-mail, he says, "My host mother is good at cooking and I want to enjoy her dinner, but I don't know Japanese table manners. What should I do?" So, we should give some advice about Japanese table manners for him.
 生徒 C: I see. Some advice about Japanese table manners. Well... Oh, I'll say, "... itadakimasu before ... eat."
 教師: That's good. So, you'll say to him, "Say itadakimasu before you eat."
 生徒 C: Yes. We should say itadakimasu and show "thank you" feeling.
 教師: I see.

中間指導においては、生徒とやり取りを行いながら、発話に対して質問したり、よい例を示したりし、表現内容がコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに沿ったものとなるよう支援しましょう。

7 授業者の声

ホームステイを題材とした単元において、身に付けさせたい資質・能力を「読んだことを基に考えたことや感じたことなどを伝え合う」と設定し、単元終末で授業実践を行いました。単元終末の言語活動は、身に付けさせたい資質・能力を踏まえ、「メールを読み、習慣やマナーの違いによる留学生の悩みに対してアドバイスをするために、考えたことや感じたことなどを伝え合う」と設定しました。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを具体的に示し、誰に対して、何のために、どのようなことを伝え合うのかを明確にしたことで、生徒は相手意識や目的意識をもちながら意欲的に言語活動に取り組んでいました。

本時における指導と評価の1つ目の工夫として、キーワードを書いたメモを基に、伝え合う言語活動を取り入れました。事前の準備を一切せず、完全に即興でやり取りを行うことは容易ではないため、何を話すかについて考える時間を設け、メモを取らせる段階的な指導を行ったことは、生徒にとって効果的な手立てとなりました。また、言語活動前の **Interactive Teacher Talk** において、メモを基に発話をするモデルを示したことで、生徒は自分の考えを整理したり生成した英文を発話につなげたりするイメージをもつことができました。

2つ目の工夫として、言語活動を複数回繰り返し、言語活動間に中間指導を行いました。そのため、生徒は、どのような表現を使ってどのような内容を伝えるとよいのかに気付くことができ、より正確な英語を使いながら、より適切な内容を伝え合うことができるようになりました。

今後も、生徒が相手意識や目的意識をもちながら意欲的に取り組めるような言語活動を設定し、実態に応じた指導と評価の工夫を取り入れた授業づくりを行っていききたいと思います。

8 参考資料等

言語活動等5「アドバイスやその理由などについて、メモを取り、考えを整理する」において生徒が作成したメモ及び言語活動等8「アドバイスやその理由などについて、メモを再構築し、再度、別のペアで伝え合う」においてメモを基に発話した英文を以下に示します。

